

《担当者名》 教授/齊藤 正人msaitoh@ 准教授/広瀬 弥奈minaniwa@ 講師/倉重 圭史kura@ 助教/大友 麻衣子tmaiko@
 助教/榊原 さや夏sayanatu@ 助教/藤田 裕介fujita-y@ 助教/蓑輪 映里佳minowa@
 非常勤講師/下野 正基 非常勤講師/土岐 志麻 名誉教授/五十嵐 清治

【概要】

前期では総論を中心に、小児の心身の発育、歯科領域に関連した顎顔面の発育、歯の発育と障害、歯列及び咬合の発育、乳歯と永久歯の交換現象、乳歯齲蝕、小児の口腔軟組織、歯周疾患、思春期歯科及び小児疾患等について学習する。
 後期では各論を中心に、小児の対応法、口腔診査法（医療面接）、乳歯齲蝕の予防と治療、各種の歯冠修復法、歯髄処置、外科的処置の他に、咬合誘導法等について学び、成長発育期の小児の歯科的な治療における基本的術式や手順、内容、留意点等について学習する。

【学修目標】

【総論（前期）】

小児の心身の発達概念を理解し、小児の対応した際、発達の程度及び異常、また、精神的・運動機能と年齢との関係を説明する。

小児の一般的な情緒の特徴、ものの考え方などを理解し、小児に対応できる基礎的事項を説明する。

頭蓋及び顎顔面の発育の基礎的事項を説明する。

歯の発育段階を乳歯、永久歯に分け、各々歯胚発生から歯根完成、乳歯の場合は脱落までの歯のlife cycleを説明する。

歯の形成障害を引き起こす種々の要因について説明する。

歯列および咬合発育の各段階、正しい状態と異常な状態を説明する。

乳歯の役割、一般的な特徴、また永久歯との相違について説明する。

小児期の齲蝕、特に乳歯齲蝕の疫学的推移、臨床的な乳歯齲蝕の特性、齲蝕の弊害について説明する。

幼若永久歯の定義及びその臨床的特徴を理解し、齲蝕予防、齲蝕処置、歯内療法処置等についての概要と処置法について説明する。

健全な小児の歯周組織の状態と歯周疾患について説明する。

小児患者の心身発育を理解したうえで診療時に表出する小児の行動を理解し、小児患者への基本的対応法を説明する。

【各論（後期）】

小児患者が来院した際の一般的な治療の流れと診査法の具体的な方法、手順を覚え、その後の臨床に役立つ基本事項を説明する。

小児齲蝕の各種の予防と抑制法について理解し、どのように適応するか、説明する。

小児の歯冠修復に際し、乳歯、永久歯の特徴を踏えた窩洞形態の特徴と処置法について説明する。

小児の歯内療法（乳歯、幼若永久歯）の一般的特徴をはじめ、その症状と処置法について説明する。

外来でできる簡単な外科処置の基本と処置法を説明する。

外傷歯の症状、診査法、処置法について説明する。

咬合誘導の概念、症状、その処置法について説明する。

小児期に発症する全身疾患について説明する。

児童虐待について説明する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	第1章 小児歯科学の意義と目的 1. 小児とは 2. 小児歯科学の意義 3. 小児歯科学の目的 4. 小児歯科の特徴 5. 小児歯科に携わるものの責任	小児歯科学の定義、意義、目的、他科との相違点などについて学び、歯科医学領域の中の小児歯科学の特徴について説明できる。 (E-4-2) 「小児歯科学ベーシックテキスト」P.1-7	齊藤 正人 広瀬 弥奈 倉重 圭史 大友 麻衣子 榊原 さや夏 藤田 裕介 蓑輪 映里佳
2	第2章 心身の発育 (1) 1. 発育総論 2. 小児の成長 3. 小児の発達	小児の歯科臨床においては、患児が常に成長発育を継続している個体であることを基に対応について説明できる。 (C-3-2)- ,) 小児期の分類、発育の評価、生理的年齢、身体発育の特徴、Scammonの発育曲線、生理的特徴等について説明できる。 (C-3-2)- ,)、(C-3-4) 「小児歯科学ベーシックテキスト」P.10-30	齊藤 正人 広瀬 弥奈 倉重 圭史 大友 麻衣子 榊原 さや夏 藤田 裕介 蓑輪 映里佳

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
3	第2章 心身の発育 (2) 3. 小児の発達 4. 小児の生理的特徴 5. 小児の栄養	精神的発達、原始反射、ことばの発達、恐れ等について説明できる。 (C-3-2)-) 小児歯科臨床に必要な小児の成長発育、発達心理について説明できる。(C-3-2)-) 小児の栄養、その摂取法について説明できる。 (B-1-) 「小児歯科学ベーシックテキスト」P.20-38	齊藤 正人 広瀬 弥奈 倉重 圭史 大友 麻衣子 榊原 さや夏 藤田 裕介 袁輪 映里佳
4	第3章 頭蓋と顎の発育 (1) 1. 頭蓋の発育 2. 顎の発育 3. 顎関節の発育	頭部、顎、顔面の発育について説明できる。 (E-2-3)-) 「小児歯科学ベーシックテキスト」P.40-48,53-56 顎関節の形態と機能の成長・発育に伴う変化を説明できる。 (E-2-3)-) 「小児歯科学ベーシックテキスト」P.46-48	齊藤 正人 広瀬 弥奈 倉重 圭史 大友 麻衣子 榊原 さや夏 藤田 裕介 袁輪 映里佳
5	第3章 頭蓋と顎の発育 (2) 4. 口腔機能の発達 5. 発育の評価	原始反射で始まる摂食機能(吸啜、咀嚼、嚥下)の発達について説明できる。 (E-2-3)-) 「小児歯科学ベーシックテキスト」P.49-54 発語機能の発達について説明できる。 (E-2-4)-(11)-) 「小児歯科学ベーシックテキスト」P.54-65	齊藤 正人 広瀬 弥奈 倉重 圭史 大友 麻衣子 榊原 さや夏 藤田 裕介 袁輪 映里佳
6) 7	第4章 歯の発育と異常 1. 歯の形成 2. 歯の形成異常 3. 歯質の異常 4. 形態と構造の異常 5. 歯の色調異常	歯胚の形成から歯の形成と歯の形成障害について説明できる。 (E-3-1)- ~) 「小児歯科学ベーシックテキスト」P.68-96	齊藤 正人 広瀬 弥奈 倉重 圭史 大友 麻衣子 榊原 さや夏 藤田 裕介 袁輪 映里佳
8	まとめ・定期試験対策	これまでの講義内容の理解度を確認するために、小テストの実施と解説を行い、学生自身の理解度を評価できる。	齊藤 正人 広瀬 弥奈 倉重 圭史 大友 麻衣子 榊原 さや夏 藤田 裕介 袁輪 映里佳
9) 10	第5章 歯列及び咬合の発育と異常 1. 歯の萌出 2. 歯の萌出異常 3. 歯の萌出に関連した異常 4. 歯列・咬合の発育段階 5. 歯列・咬合の発育 6. 歯列・咬合の発育異常	出生直後の歯が萌出する前から、乳歯列期、混合歯列期を経て健全な永久歯咬合が完成するまでの咬合発育を各段階毎に分けて学び、各段階の特徴について説明できる。 (E-2-3)- ,) 無歯期から乳歯萌出期、乳歯咬合完成期にかけての小児の歯列・咬合の特徴について説明できる。 (E-2-3)- ,) 混合歯列期の小児の歯列・咬合の特徴と要点、乳歯から永久歯への正常な歯の交換について理解する。 (E-2-3)- ,) 歯列及び咬合の正常な発育を阻害する因子としてどのようなものがあるかについて学ぶ。特に、健全な永久歯咬合を育成するうえで乳歯の果たす役割について説明できる。 (E-2-3)- ,) 「小児歯科学ベーシックテキスト」P.98-124	齊藤 正人 広瀬 弥奈 倉重 圭史 大友 麻衣子 榊原 さや夏 藤田 裕介 袁輪 映里佳

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
11	第6章 乳歯・幼若永久歯の特徴 1. 乳歯 2. 幼若永久歯 3. 乳歯と永久歯の比較	乳歯の解剖学的・組織学的特徴について学び、歯科診療上どのような点に注意しなければならないかについて説明できる。 (E-3-1)- () 成熟永久歯と比較した幼若永久歯の特殊性、歯科診療上の注意点について説明できる。 (E-3-1)- () 「小児歯科学ベーシックテキスト」P.126-139	齊藤 正人 広瀬 弥奈 倉重 圭史 大友 麻衣子 榊原 さや夏 藤田 裕介 袁輪 映里佳
12	第7章 小児の齲蝕 1. 齲蝕の病因論 2. 小児期の齲蝕の特徴 3. 小児の齲蝕の為害作用 4. 齲蝕の検査法と診断	歯科診療上理解しておくべき乳歯齲蝕の疫学的特徴、臨床的特徴について説明できる。 (E-4-2)- () 幼若永久歯の齲蝕の特徴を、幼若永久歯の特殊性と関連して理解し、それについて説明できる。 (E-4-2)- () 乳歯が果たしている多様な役割を、小児の身体的・精神的な発育の中で捉え、理解し、それについて説明できる。 (E-4-2)- () 乳歯の持つ役割が齲蝕により阻害された場合に小児の心身発育に及ぼす様々な悪影響について、局所的・全身的に分けて説明できる。 (E-4-3)- () 「小児歯科学ベーシックテキスト」P.142-153	齊藤 正人 広瀬 弥奈 倉重 圭史 大友 麻衣子 榊原 さや夏 藤田 裕介 袁輪 映里佳
13	第8章 小児の歯周組織と歯周疾患 1. 正常な小児の歯周組織 2. 小児・若年者の歯周疾患 3. 歯周疾患の診察・検査と診断 4. 歯周疾患の予防・処置	小児の歯周組織の特徴と、小児期にみられる各種の歯周疾患について説明できる。 (E-3-1)- ()、(E-3-2)- () 「小児歯科学ベーシックテキスト」P.156-170	齊藤 正人 広瀬 弥奈 倉重 圭史 大友 麻衣子 榊原 さや夏 藤田 裕介 袁輪 映里佳
14	第9章 小児への歯科的対応 1. 小児患者の心理 2. 小児 - 保護者 - 歯科医師の関係 3. 歯科的対応の実際 4. 年齢別対応法 5. 行動変容技法 6. 抑制的対応法 7. 前投薬 8. 精神鎮静法 9. 全身麻酔法	小児の精神発達の特徴や恐れの対象、ものの考え方などが、歯科治療の場面でどのように現れるか関連付けて説明できる。 患者対歯科医師のみならず、保護者対歯科医師、患者対保護者の関係までも視野に含める必要がある小児歯科診療の特殊性について説明できる。 上記を踏まえたうえで、小児に対する実際臨床上の対応法を、歯科治療に適應できる小児と適應できない小児の場合に分けて説明できる。 (E-4-2)- () 「小児歯科学ベーシックテキスト」P.172-182	齊藤 正人 広瀬 弥奈 倉重 圭史 大友 麻衣子 榊原 さや夏 藤田 裕介 袁輪 映里佳
15	まとめ・定期試験対策	これまでの講義内容の理解度を確認するために、小テストの実施と解説を行い、学生自身の理解度を評価できる。	齊藤 正人 広瀬 弥奈 倉重 圭史 大友 麻衣子 榊原 さや夏 藤田 裕介 袁輪 映里佳
16	前期定期試験解説 第10章 診察・検査・治療計画 1. 診断に必要な診察 2. 診断に必要な検査と資料 3. 診察計画立案の基本 第14章	前期定期試験の解説から学生自身の理解度を評価できる。 すべての診療の基礎となる正しい診査と診断の重要性について説明できる。 (E-1-1)- () 診断から治療方針の決定、治療計画の立案までの流れを理解し、そのポイントについて説明できる。 (E-1-1)- ()	齊藤 正人 広瀬 弥奈 倉重 圭史 大友 麻衣子 榊原 さや夏 藤田 裕介 袁輪 映里佳

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	外科的処置 1. 局所麻酔 2. 乳歯の抜歯 3. リスクマネージメント 4. 過剰歯の抜歯 5. 小児への薬物療法	小児歯科診療における患者教育（保護者に対する教育）、定期検診（リコール）の意義と重要性について説明できる。 (E-1-1)- ~) 「小児歯科学ベーシックテキスト」P.184-196 小児の外科的処置の中でも大半を占める乳歯の抜歯について説明できる。 (E-1-5)-) 乳歯抜歯の目的、適応症、非適応症、臨床術式、抜歯時及び抜歯後の注意点について説明できる。 (E-1-5)- 、E-1-4)-(3)-) 過剰歯及び埋伏歯の処置法について、説明できる。 (E-1-5)-) 小児の生理学的特性と関連付けて小児への投薬時の注意点について説明できる。 (C-6-3)-) 「小児歯科学ベーシックテキスト」P.276-292 「小児歯科学クリニカルテキスト」P.54-60	
17) 18	第11章 齲蝕の予防と進行抑制 1. 齲蝕予防 2. 齲蝕の進行抑制	小児歯科診療における齲蝕予防の意義と重要性について理解し、その具体的な方法について説明できる。 (E-4-2)- , 小児のブラッシング指導及びその他の補助的清掃法の指導の実際について説明できる。 (B-3-2)- 食生活、特に間食と小児齲蝕との関連性について理解し、齲蝕発生を抑制する手段としての食生活指導の重要性について説明できる。 (B-3-2)- ,) フッ化物を応用した齲蝕予防の機序と実際について説明できる。 (E-4-2)- , B-3-2)-) 窩溝填塞法の目的と方法について説明できる。 (B-3-2)-) 「小児歯科学ベーシックテキスト」P.198-214 「小児歯科学クリニカルテキスト」P.2-7	齊藤 正人 広瀬 弥奈 倉重 圭史 大友 麻衣子 榊原 さや夏 藤田 裕介 袁輪 映里佳
19) 20	第12章 小児の歯冠修復 1. 齲蝕治療の基本 2. 乳歯の歯冠修復 3. 幼若永久歯の歯冠修復	乳歯の歯冠修復の目的と、永久歯歯冠修復との相違点、考え方について説明できる。 (E-4-2)-) 各種修復材料別に、その特徴、適応症と非適応症、臨床術式について説明できる。 (E-4-2)-) 幼若永久歯の特殊性、歯冠修復における考え方、歯冠修復法の実際について説明できる。 (E-4-2)-) 「小児歯科学ベーシックテキスト」P.216-240 「小児歯科学クリニカルテキスト」P.2-29	齊藤 正人 広瀬 弥奈 倉重 圭史 大友 麻衣子 榊原 さや夏 藤田 裕介 袁輪 映里佳
21) 23	第13章 歯内療法 1. 乳歯の歯内療法 2. 幼若永久歯の歯内療法	乳歯の歯内療法の目的と、永久歯歯内療法との相違点、考え方について説明できる。 (E-4-2)-) 乳歯の歯髄炎及び根尖性歯周炎の診断、特徴、治療法について説明できる。 (E-4-2)- ,) 歯内療法の各法について、適応症と非適応症、臨床術式について説明できる。 (E-4-2)-) 小児の歯内療法に用いられる薬剤の所要性質について説明できる。 (E-4-2)-)	齊藤 正人 広瀬 弥奈 倉重 圭史 大友 麻衣子 榊原 さや夏 藤田 裕介 袁輪 映里佳

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		<p>幼若永久歯の特殊性、歯髄処置における考え方、歯内療法の実際について説明できる。特に、apexification及びapexogenesisの概念について説明できる。</p> <p>(E-4-2)- ()</p> <p>「小児歯科学ベーシックテキスト」P.241-273 「小児歯科学クリニカルテキスト」P.32-51</p>	
24	<p>第15章 顎骨と口腔軟組織の疾患</p> <p>1. 骨の疾患 2. 口腔軟組織疾患</p>	<p>小児の口腔領域にみられるその他の疾患・異常の種類と処置法について説明できる。</p> <p>(E-4-2)-(3)- ()</p> <p>「小児歯科学ベーシックテキスト」P.294-306 「小児歯科学クリニカルテキスト」P.62-73</p>	<p>齊藤 正人 広瀬 弥奈 倉重 圭史 大友 麻衣子 榊原 さや夏 藤田 裕介 袁輪 映里佳</p>
25) 26	<p>第16章 歯の外傷</p> <p>1. 小児の歯の外傷の疫学 2. 歯の外傷の分類 3. 外傷の診察・検査と診断 4. 外傷永久歯の処置と経過 5. 外傷乳歯の処置 6. 外傷歯の後遺症 7. 小児外傷の予防</p>	<p>小児における乳歯及び永久歯の外傷について、その疫学的特徴、影響、分類、診査・診断、処置法について説明できる。</p> <p>(E-4-2)- ()</p> <p>「小児歯科学ベーシックテキスト」P.308-325 「小児歯科学クリニカルテキスト」P.76-86</p>	<p>齊藤 正人 広瀬 弥奈 倉重 圭史 大友 麻衣子 榊原 さや夏 藤田 裕介 袁輪 映里佳</p>
27) 28	<p>第17章 咬合誘導</p> <p>1. 咬合誘導とは 2. 咬合誘導のための診察・検査・診断 3. 静的（受動的）咬合誘導 4. 動的（能動的）咬合誘導法 5. 口腔習癖の処置</p>	<p>咬合誘導の概念と意義・目的について理解し、咬合誘導の実際について説明できる。</p> <p>(E-4-2)- ()</p> <p>歯列及び咬合の異常の診査と診断、治療方針の決定について説明できる。</p> <p>(E-4-1)- (E-4-2)- ()</p> <p>歯列及び咬合の異常を引き起こす各種の原因について説明できる。</p> <p>(E-4-1)- (E-4-2)- ()</p> <p>保隙の目的、保隙装置の種類と適応について説明できる。</p> <p>(E-4-2)- ()</p> <p>動的咬合誘導の目的と適応、方法について説明できる。</p> <p>(E-4-2)- ()</p> <p>各種の口腔習癖と、それによって引き起こされる歯列不正との関係について理解し、その対処法について説明できる。</p> <p>(E-4-2)- ()</p> <p>「小児歯科学ベーシックテキスト」P.328-358 「小児歯科学クリニカルテキスト」P.88-116 「小児歯科疾患の診断と治療」P.176-219</p>	<p>齊藤 正人 広瀬 弥奈 倉重 圭史 大友 麻衣子 榊原 さや夏 藤田 裕介 袁輪 映里佳</p>
29	特別講義		土岐 志麻
30	<p>第18章 摂食・嚥下機能発達障害</p> <p>1. 小児の摂食・嚥下障害</p> <p>第19章 顎関節症</p> <p>1. 顎関節症</p> <p>第22章 児童虐待</p> <p>1. 児童虐待の歴史</p>	<p>小児の摂食・嚥下発達について説明できる。</p> <p>(E-5-2)- ()</p> <p>小児の摂食・嚥下発達障害の対応について説明できる。</p> <p>(E-5-2)- ()</p> <p>小児の窒息・誤嚥への対応について説明できる。</p> <p>(E-5-2)- ()</p> <p>小児の顎関節症の疫学的特徴を説明できる。 小児の顎関節症の臨床的特徴を説明できる。 小児の顎関節症の管理を説明できる。</p> <p>(E-2-4)-(7)- ()</p>	<p>齊藤 正人 広瀬 弥奈 倉重 圭史 大友 麻衣子 榊原 さや夏 藤田 裕介 袁輪 映里佳</p>

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	2. 児童虐待の概念 3. 児童虐待の分類 4. 児童虐待の疫学 5. 児童虐待の発生要因 6. 被虐待児及び虐待者にみられる特徴 7. 児童虐待の心身への影響 8. 児童虐待への歯科医としての対応 まとめ・定期試験対策	「小児歯科学ベーシックテキスト」P.360-378 小児の虐待の徴候と対応を説明できる。 (E-4-2)-) 「小児歯科学ベーシックテキスト」P.426-432 これまでの講義内容の理解度を確認するために、小テストの実施と解説を行い、学生自身の理解度を評価できる。	

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

前期、後期とも定期試験（90％）、出席などを含む授業態度（10％）

- ・定期試験のフィードバックは、「小児歯科学 各論（後期）」の第1回目で行う。
- ・〔判定法〕前期評価（50％）、後期評価（50％）とし、60点以上を合格とする。

【教科書】

「小児歯科学ベーシックテキスト」永末書店

「小児歯科学クリニカルテキスト」永末書店

その都度講義プリントを配布する。

【備考】

個人情報（患者情報）保護のため、スライドや講義内容などの写真撮影・録音を禁ず。

【学修の準備】

予習として、指定した教科書の項目を事前に必ず読んでおく。（45分）

復習として、前回学習した内容について指定した教科書の項目を読んでおく。（45分）

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1. 安全で質の高い歯科医療を提供するために必要な専門知識に基づく問題解決能力と患者ケアのための診療技能とからなる専門的実践能力、および医療・医学研究の発展のために必要な情報・科学技術の活用能力を身につけている。

（専門知識に基づいた問題解決能力、患者ケアのための診療技能、情報・科学技術を生かす能力）

DP 2. 「総合的に患者・生活者を支える歯科医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を身につけている。

（総合的に患者・生活者をみる姿勢、プロフェッショナルリズム、コミュニケーション能力）

DP3. より安全で質の高い歯科医療を実践し社会に適応する医学を創造していくために生涯にわたって自己および他の医療者との研鑽を継続しながら医療者教育と学術・研究活動にも関与できる能力を身につけている。

（科学的探究、生涯に渡ってともに学ぶ姿勢）

DP 4. 多職種（保健、医療、福祉、介護）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践できる能力を身につけている。

（多職種連携能力）

DP 5. 歯科医療の専門家として、経済的な観点・地域特性を捉えた視点・国際的な視野を持ちながら活躍できる能力を身につけている。

（社会における医療の役割の理解）

【実務経験】

齊藤 正人（歯科医師）、広瀬 弥奈（歯科医師）、倉重 圭史（歯科医師）、大友 麻衣子（歯科医師）、

榊原 さや夏（歯科医師）、藤田 裕介（歯科医師）、蓑輪 映里佳（歯科医師）、非常勤講師/土岐 志麻（歯科医師）、

非常勤講師/下野 正基（歯科医師）、名誉教授/五十嵐 清治（歯科医師）

【実務経験を活かした教育内容】

小児歯科学とは、小児の口腔機能の正常な発育を図るために、これを障害する異常や口腔疾患の予防と治療を行い、健全な機能をもつ総合的咀嚼器官を育成し、小児の全身の発育と保健に寄与する科目である。多くの実務経験を背景とした経験談や症例を提示することで、優れた教育効果が期待できる内容となっている。